

大和川流域LETTER

令和5年度最終号



大和川河川事務所の事業や取り組み状況をお知らせします

【流域治水を自分事化するイベントを開催しました】

- ・流域治水はあらゆる関係者が協働して取り組みため、流域住民の方に自分事化していただくため、2月17日にイオンモール大和郡山でイベントを開催しました。

○大和川流域治水イベント内容

- ・大和川流域において、国が管理する河川治いで最大となるイオンモール大和郡山の中でも、最も人が行き来する場所（北小路コート）を借用しました。
- ・イベントでは、3つのブースのスタンプラリーで流域治水の取り組みを知ってもらい、さらに流域治水を実践するためのマイタイムラインの作成ブースを用意しました。約8時間のイベント開催で300名の参加がありました。

①参加者の導入

たくさんの方に参加していただくための導入工夫

大和川流域を3m幅の大型マットで設置することで、2階や3階から確認できる大和川の大型航空写真や、パネル、貯留施設カードなどで立ち止まって見ていただきました。



②奈良盆地の形状と貯留の必要性理解

わかりやすい治水模型で自分たちで雨を流して理解

大和川流域を簡易的な模型とし、そこにビー玉を流すことで、流域内に降った雨がどう流れていくかを再現。盆地形状のため、中心部にあつまりつつ、亀の瀬狭窄部での滞留なども表現しつつ、貯留施設を穴ぼこで表現することで、ビー玉が溜まり、下流への流量低減する部分も理解を促進。



③自分が流域のどこにいるかを確認

流域番地サイトを新たに作成し、流域や近隣の河川、大阪湾までの距離などを確認

地図上で任意の場所をクリックすることで、支川名や支川流域の範囲、大和川までの距離、大阪湾までの距離を確認できるサイトを作成し、流域というものを知ってもらいました。



④流域治水の背景を理解

流域治水とはどういうことなのか、簡単にまとめた動画を映写

3分弱の動画で、大和川の流域、亀の瀬狭窄部の存在、氾濫をできるだけ防ぐ対策、被害対象を減少させる対策、避難・早期復旧の対策といった流域治水の考え方に加え、自分でできる流域治水として、雨の日には風呂の水を流さないことや庭先で雨水を溜めることも見てもらうことで、流域治水を自分事として、理解いただきました。



⑤より流域治水へ貢献 マイタイムラインの作成

自宅の浸水や避難の必要性などより、流域治水を実践してもらうためのマイタイムラインの作成ブースを設置し、参加者の中でも浸水区域に住んでいる方は積極的に相談されるとともに、流域内25市町のハザードマップを準備し、配布しました。

⑥流域治水グッズの作成・配布

大和川流域治水のロゴマークを使ったスタンプラリーとして「模型で感じる」、「番地で知る」、「動画で知る」の3つを回することで、貯留施設マップやパンフレットなどを配布するとともに、自分事化した流域治水を自宅で実践にむけ、雨を溜めるための「桶」を配布しました。



【今月のコラム】 自分事：自分が逃げることで、助かる人がいるかもしれません

災害時には、消防や警察、自衛隊が逃げ遅れた人を懸命に救助にあたっています。

ところが過去のデータをみると、消防・警察・自衛隊が救助できたのは約2割、あとの約8割の人は近隣の住民たちによって助け出されているのです。

「自助」「共助」「公助」という言葉があります。「公助」はもちろん行政が行いますが、自分が避難をすることで隣人が避難することは「自助」から「共助」につながります。隣人や地域が避難することで、救助される人を大幅に減らすことができるのです。

水害は準備ができる災害です。

そのため日頃から、ハザードマップや浸水表示などを知り、避難計画や経路を確認し準備を行って下さい。

あなたや家族が当事者意識を持ち、逃げて助かることで、ひとりでも多くの人が救助されることをいつも心に刻んでください。

その日、当事者になるのは、あなた自身です。



救助主体と救助者数

●わ・た・し・の・や・ま・と・が・わ

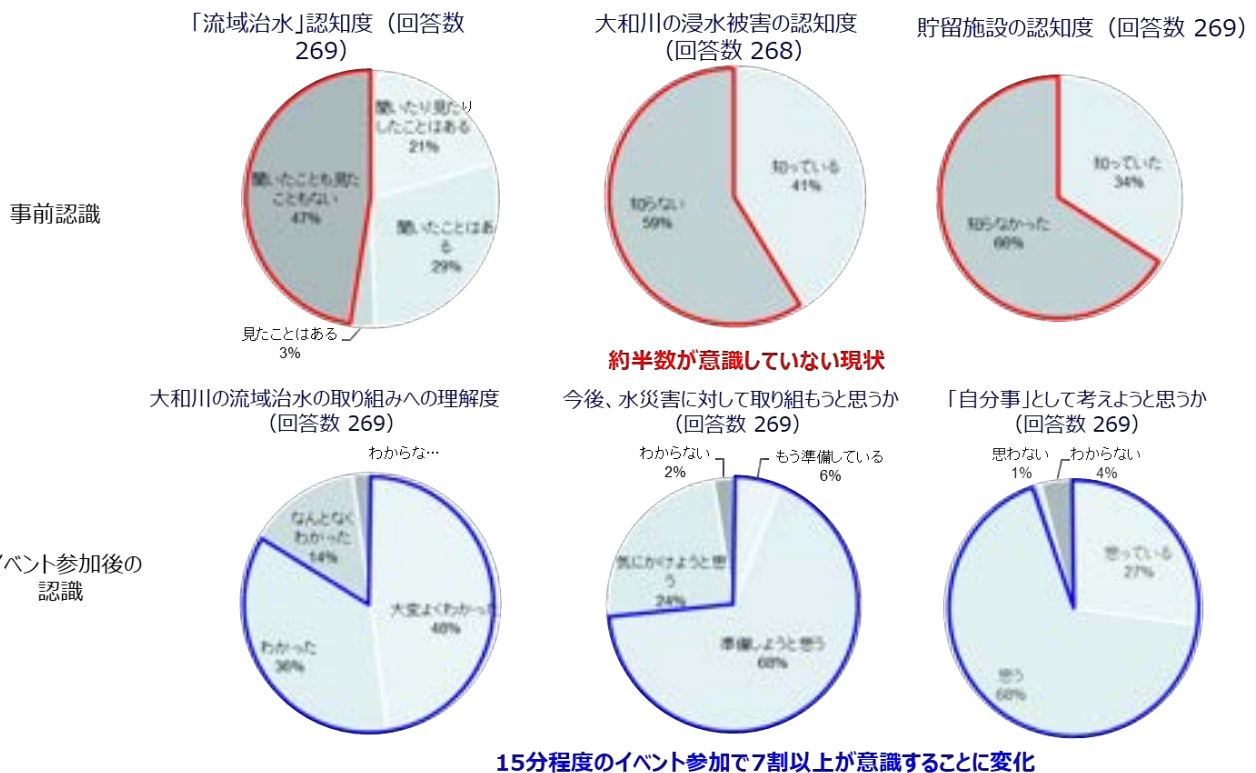
わ わたしごと、と思ういつかくる水害の日
た ただちに避難する勇氣
し 調べてそなえる、わが町のハザードマップ
の のぞみをつなぐ生活備蓄品
や やっておこう、家族の安否確認ルール
ま 万が一に、備えていれる防災アプリ
と とにかく逃げる、まわりを気にせず
が がんばって、ふだんから備えるこつこつと
わ わたしにもできる、水害は備えられる自然災害

【流域治水を自分事化するイベント参加者の声】

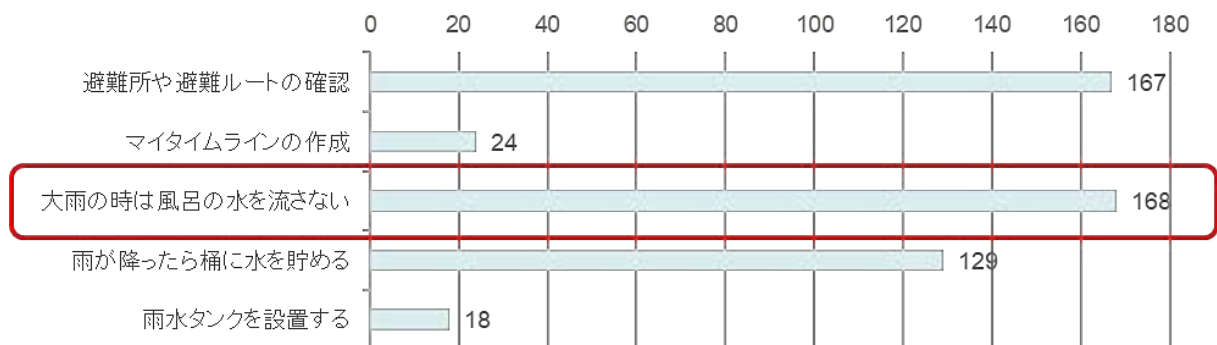
・300名を超える参加者のうち、269名にアンケートを記載いただきました。

○主な意見

- ・流域治水という言葉を知ったが、イベントを経て理解する事ができた。**住民も大雨時には水を貯める事が大切だと感じたので、グッズで買った桶で実践していきたい。**また、奈良県に貯留施設がこんなにたくさんあると知らなかった。
- ・このイベントのおかげで流域治水を身近に感じる事ができたため、**これからもこのイベントを色々な場所で開催してほしい。**
- ・自分の住んでいる地域のハザードマップをもらい、実際に避難するためのマイタイムライン（避難計画）を作成することができた。家に帰ってからも、家族と避難場所を確認したり、事前に逃げる際の荷物をまとめておくなど準備をしようと思った。
- ・**こういうわかりやすいイベントを是非、近くでやってほしい。**また学校教育でもお願いしたい。
- ・治水や奈良の地形について聞いたことがあり、何となく理解していたが、今回のイベントで見て触れたことにより、とても理解できた。小さな子供たちにも大変有意義なイベントだと思いました。
- ・自分の周辺では山くずれの心配もないし、水がつくこともないので、**真剣に考えていなかったが、**今回の催しで勉強できてよかった。
- ・矢田小学校の運動場も大和川流域治水のために役立っていることがわかった。**何千万円もかけて工事をした意味を知りました。**
- ・雨の降り方が年々多くなっているの、今回のようなイベントはもっともっと多くしていただきたいです。



自分でできる流域治水でやってみようと思う内容



- ・アンケート結果から、参加者の半数以上が流域治水や浸水被害、貯留施設などの認識がなかったところ、今回のイベント開催により、理解度が大きく増加し、95%の人が自分事として考えようと思うと回答。
- ・継続して、流域や河川の流れなど、住民の方々がしっかり理解し、自分事化していくための、知る機会を増やすためのイベントを継続して開催していきます。

3月29日亀の瀬地すべり資料館がオープンします！

- 大和川流域の大阪と奈良の県境にある亀の瀬狭窄部は治水上の要所かつ地すべり地帯となっており、日本最大級の土木技術が集約されています。
- 亀の瀬地すべり資料館では、これまでの地すべりの歴史や対策技術の紹介だけでなく、実際の深礎工の大きさを確認したり、日本初の特定都市河川として大和川で進めている流域治水についても紹介しており、イオンイベントで好評の模型を置いており、亀の瀬の地すべりだけでなく、大和川全体を触って学べる施設となっています。



- 併せて、亀の瀬地すべり事業地は、インフラツーリズムのモデル地区にもなっており、明治時代のトンネル遺構や滑り面の水を抜く集水井などをまわるインフラツーリズムを行うことができ、新しい資料館では亀の瀬グッズなど地域のお土産物も販売しています。



あとがき

- 大和川河川事務所では、令和3年に全国初の特定都市河川指定を受けるとともに、川西町域、田原本町域において全国初となる土地利用規制の調整を進めています。
- 大和川流域LETTERとして、大和川流域で取り組んでいる「流域治水」について、毎月発行してきました。
- 今回のLETTERで大きく取り上げた、自分事化するイベントでは、多くの方に「勉強になった」という声をいただきました。
- 近年、激甚化・頻発化する水災害に備え、自宅の立地や周辺の環境を考え、災害リスクを知ることや避難をするということをしっかり自分たちで考え、自分自身や家族を守る取り組みを行っていただきたいと思います。